**いとうせいこう×奥泉 光**

**＜文芸漫談シーズン５＞**

**シェイクスピア『ハムレット』**

この企画は、いとうせいこうと奥泉光が、小説の面白さを、笑いを取りながら伝えたいと、漫談形式で始めた文学ライブです。

芥川賞作家と稀代の仕掛人が捨て身でおくる、漫談スタイルの超ブンガク実践講座。

*小説の書き方・読み方がクスクスわかる？かも！*



作家・クリエーターとして活躍する“いとうせいこう”と、芥川賞作家であり大学教授の“奥泉光”による耳馴染みのない『文芸漫談』なる公演が、年3回のシリーズで行われている。

2006年5月から始まったこの会も、お客様に支えられながら13年、その48回目。  
今回は、3年ぶりに古巣の演劇の街・下北沢に戻ってきました。

内容、構成はいたってシンプルで、文学作品を題材にし、笑いを盛り込み、二人で作品を語っていく、漫談形式のトークショーです。

同類のトークショーのように、作品への理解を与えることにこそ違いはないのですが、そこに、博学がユーモアをまとったような二人の『笑い』が入ることにより、お客さまの興味をより深いところまで誘い、“豊かな文学”になるのでは、との試みです。

今回の「ハムレット」は、デンマークの王子ハムレットは、父王の亡霊から、叔父と母の計略により殺されたことを知らされ、固い復讐を誓った。

悩み苦しみながらも、狂気を装い、ついに復讐を遂げるが自らも毒刃に倒れる。

美しい恋人オフィーリアは、彼の変貌に狂死する・・・・・

何だ、それなら知っているよ！と、言われる方も、二人の手にかかると、こんな読み方もあったのかと納得いただけるものと思いますよ！

出演■**いとうせいこう／奥泉 光**

日時■**2019年9月20日（金）19：00開場／19：30開演**

料金■全席指定席　前売☆2,500円／当日☆2,800円

会場■北沢タウンホール（☎ 03-5478-8006）世田谷区北沢2-8-18

　　　　　　小田急線、京王井の頭線「下北沢駅」東口より徒歩5分

ﾁｹｯﾄ問合せ■Ｋ・企画　（TEL＆FAX 03-3419-6318）

　　　　　　　HP < http://www.k-kikaku1996.com/work/bunman/index.html>

　　　　　　　E-mail bungei\_4comic@k-kikaku1996.com

　　　　　■イープラス　< https://eplus.jp/>

　　　　　■チケットぴあ　TEL 0570-02-9999（Pコード：642-637）

　　　　　　< https://t.pia.jp/>

主催■舞台よろず相談所 Ｋ・企画

**『ハムレット』梗概**

デンマークの王子ハムレットは、父王の亡霊から、叔父と母の計略により殺されたことを知らされ、固い復讐を誓った。

悩み苦しみながらも、狂気を装い、ついに復讐を遂げるが自らも毒刃に倒れる。

美しい恋人オフィーリアは、彼の変貌に狂死する・・・・・。

数々の名セリフを残したシェイクスピア悲劇の最高傑作。

**ウィリアム・シェイクスピア　＜1564年～1616年＞**

英国の劇作家、詩人。英国ルネサンス演劇を代表する人物。

出生地はストラトフォード・アポン・エイヴォン。

父は皮手袋商人で市会議員、母はジェントルマンの娘であり、裕福な家庭環境に育つ。

18歳で26歳の女性と結婚。

1585年前後にロンドンに進出し、1592年には新進の劇作家として活躍した。

1612年ごろに引退するまでの約20年間に、四大悲劇『ハムレット』『マクベス』『オセロ』『リア王』をはじめ、『ロミオとジュリエット』『ヴェニスの商人』『夏の夜の夢』『ジュリアス・シーザー』など多くの傑作を残した。

『ヴィーナスとアドーニス』のような物語詩もあり、特に『ソネット集』は今日でも最高の詩編の一つとされている。

その卓越した人間の心理描写により、最も優れた英文学の作家と言われる。

**出演者紹介**

**【いとうせいこう】**

1961年、東京生まれ。 早稲田大学法学部卒業。 作家・クリエーター。

『ノーライフキング』で小説家としてデビュー。その後『ワールズ・エンド・ガーデン』『解体屋外伝』『豊かに実る灰』『波の上の甲虫』などを執筆。

2013年『想像ラジオ』で第35回野間文芸新人賞受賞。

最新作『鼻に挟み撃ち』（2013年すばる12月号）で2度目の芥川賞候補にノミネート。

主なエッセイ集として『見仏記』（共作／みうらじゅん）『ボタニカル・ライフ』などの他、舞台・音楽・テレビなどで活躍。

公式HP＝http://www.froggy.co.jp/seiko/

**【奥泉 光】**

1956年、山形生まれ。国際基督教大学大学院修了。小説家・近畿大学教授。

主な小説に『ノヴァーリスの引用』『バナールな現象』『「吾輩は猫である」殺人事件』『プラトン学園』『グランド・ミステリー』『鳥類学者のファンタジア』『浪漫的な行軍の記録』『新・地底旅行』『神器—軍艦「橿原」殺人事件』などがある。

1993年『石の来歴』で第110回芥川賞受賞。

2009年『神器—軍艦「橿原」殺人事件』で第62回野間文芸賞を授賞。

2014年『東京自叙伝』で谷崎潤一郎賞を授賞。

公式HP＝http://www.okuizumi.com/